

藏内会長インタビュー記事の新聞掲載

前号の本誌第77巻5号巻頭言に掲載のとおり、本会の藏内勇夫会長が令和8年（2026年）に世界獣医師会会長に就任する。これについて、今般産経新聞社からインタビューを受け、その様子が紙面及びWebページに掲載されたのでここに紹介する。

日本人初の世界獣医師会会長へ 藏内勇夫氏 「ワンヘルス」の グローバルスタンダードが目標

日本人初の世界獣医師会（WVA）の会長就任が決まった自民党の藏内勇夫福岡県議（70）＝写真＝が産経新聞のインタビューに応じ、「人の健康、動物の健康、環境の健全性を1つの健康と捉え、一体的に守るワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）とアジア大洋州医師会連合の連携に関する基本合意を8月に結ぶ方針も明らかにした。（千田恒弥）



藏内勇夫（くらうち・いさお）昭和28年生まれ、福岡県出身。54年3月に日大農獣医学部獣医学科卒業後、臨床獣医師。55年7月から国会議員秘書を経て62年4月に福岡県議会議員に初当選し、現在10期目。平成13年5月に福岡県議会議長に就任、22年3月に九大院博士課程修了。自民党福岡県連常任相談役のほか、日本獣医師会、アジア獣医師会連合の会長を務めている。

WVAは米国やスペイン、日本など70カ国・地域が加盟する団体で、会長選では藏内氏を含む4人が立候補した。藏内氏は加盟団体の約7割の得票を集めて次期会長に選ばれた。

会長任期は令和8年から2年間。藏内氏は現在、FAVAと日本獣医師会の会長も兼務しており、出馬経緯について「『FAVAで進めてきたワンヘルスを世界に広めるべきだ』との声があり、多くの仲間から推薦された」という。

藏内氏は「今、地球は温暖化や環境破壊などで悲

鳴を上げている。人が健康に暮らすには動物、そして地球も健康でなければならない。こうした課題を解決するのがワンヘルスであり、この実践を通して美しい地球を次世代に引き継いでいく必要がある」と述べた。

その上で「ワンヘルスのグローバル・スタンダード化に寄与するのが、2年12月に成立した福岡県ワンヘルス推進基本条例で示した考え方になる」と説明した。同条例では①人獣共通の感染症対策 ②薬剤耐性菌対策 ③人の健康 ④動物の健康 ⑤地球

